【ポスター発表】

限界集落における地域住民の高齢者支援パワーと集落内外の家族・親戚／友人・知人へのサポート期待の関連

○　武蔵野大学　　渡辺　裕一（4308）

キーワード：限界集落、地域住民、サポート期待

１．研 究 目 的

我が国における急激な高齢化率の高まりに多くの注目が集まるところであるが，地域レベルに視点を変えてみてみると，すでに高齢化率が 50%を超え，社会的共同生活の維持が困難な状態の「限界集落（大野，2008)」と呼ばれる村や集落がすでに数多く存在している．2011（平成 23）年に行われた介護保険法の改正で地域包括ケアの実現に向けた方策が検討される一方で，このような集落の状況により，生活継続が困難となり，住み慣れた地域での生活をあきらめざるを得なくなるケースは少なくない．結果として，「限界集落」は「廃村」,「消滅集落」となってしまう可能性が高い．住み慣れた地域での生活を継続可能にする地域包括ケアの実現に向け，限界集落における取り組みを検討することは喫緊の課題であり，その課題への取り組みの過程では，地域住民自身が問題解決に取り組む力を引き出し高めていく，エンパワメントに向けた働きかけが必須であると考える．

そこで，高齢者の生活に必要な様々な資源が不足する限界集落で重要な生活継続の条件の一つとして挙げられるのが，集落内の家族・親戚／友人・知人のサポート及び集落外のサポートの獲得である．本研究では,「集落内外の家族・親戚／友人・知人によるサポート提供が得られるだろう」という予測を「サポート提供期待」とし，限界集落における地域住民の高齢者支援パワー尺度の得点が高いほど，集落内外の家族・親戚／友人・知人へのサポート期待を持ちやすいのか，明らかにすることを目的とする．

２．研究の視点および方法

調査は，A県B市C町の20歳以上の住民全員を対象とした全数調査を実施した．調査員が住宅地図を活用して全戸を訪問して調査票を配布・回収する配票留め置き法によって実施した．調査実施期間は平成25年2月27日～3月3日の5日間で，228件の調査票を配布，186件の有効回答を得た．有効回答率は82.0%であった．

地域住民のパワーの測定には、地域住民の高齢者支援パワー尺度（SPES）を用いた。SPES は全 10 項目から構成された地域住民が地域の高齢者福祉の向上に働きかけるパワーを測定する尺度である．渡辺（2008）によれば,「地域の高齢者福祉に対する影響力意識」に関する因子と「地域の高齢者福祉問題の共有意識」に関する因子の 2 因子から構成されることが明らかになっている。今回使用したデータでも，SPES10 項目でのクロンバックのα係数は 0.884 であり，十分な内的整合性が認められている。

集落内外の家族・親戚／友人・知人からのサポートへの期待の有無については，想定さ

れるサポート提供者との空間的な距離等は規定せず，主観的に「手助けが期待できるか」について「期待できる」「期待できない」「いない」の選択肢で質問した．

これらの変数について一元配置の分散分析を行い，サポート提供期待の有無と SPES 得点の関連を検討した．多重比較には，Bonferroni の方法を用いた．

３．倫理的配慮

調査研究の実施における倫理的配慮として，事前に調査対象地域の自治体に調査票を提出し，調査の実施及び内容について理解を得た．また，調査員には調査票の回収及び回収した調査票の管理，個人情報保護について研修を行った．対象者には，調査協力は任意であること，調査内容は調査目的以外に使用しないこと，得られたデータは統計的に処理すること等を調査票に明記し，回答をもって調査への協力に同意が得られたこととした．

４．研 究 結 果

単純集計の結果，回答者の性別は男性 86 人（46.2%），女性 100 人（53.8%），平均年齢（標準偏差）は 67.99（±15.54）であった．年齢及び性別とサポート期待との間に有意な関連は認められなかった。

一元配置の分散分析を行った結果は，次のとおりである．①「集落内の家族・親戚」について，期待有群（平均 45.53 点）と期待無群（平均 38.19 点）の間に 1%水準で有意差が認められた，②「集落外の家族・親戚」について，個別の群の間には有意差は認められなかった，③「集落内の友人・知人」について，期待有群（平均 45.84 点）と期待無群（平均 38.97 点）の間に 1%水準で有意差が認められた，④「集落外の友人・知人」について，期待有群（平均 45.40 点）と期待無群（平均 41.75 点）の間に 5%水準で有意差が認められた．①から④のすべての分析結果で，いない群との間に有意な関連は認められなかった．

５．考 察

地域の高齢者福祉問題解決への影響力意識や共有意識を表す SPES 得点との関連で，「集落内の家族・親戚」，「集落内外の友人・知人」からのサポート提供期待有群が無群に比べて有意に SPES 得点が高かったが，「集落外の家族・親戚」からのサポート提供期待との間には有意差が認められなかった．これには，「集落外の家族・親戚」からのサポート提供と空間的距離の関係が，他の 3 つの分析よりも大きく影響しているものと考えられる．資源が限られている限界集落での生活の維持において，集落外からのサポートを得られるネットワークづくりが重要であるが，そのためには，空間的距離に影響を受ける集落外の家族・親戚のみならず，集落外の友人・知人のサポート提供可能性を高めておくことが必要と考えられる．地域の高齢者福祉問題への影響力意識及び共有意識の高い人が，集落外の友人・知人からのサポート提供可能性も高いことが示唆されたことから，集落外からのサポート提供可能性を高めるためにも，地域住民のエンパワメントが必要と考えられる．